

黒竜江省におけるイワツバメの亜種名修正

劉 伯 文

東北林業大学涼水動物生態研究ステーション

訳 福井和二

イワツバメ (毛脚燕, *Delichon urbica*) には5つの亜種がある。今まで、我が国の東北地方に分布すると認められていたのは、亜種 *dagopoda* である¹¹⁻¹⁴⁾。亜種 *dacypus* の分布については報告がない。現在、筆者の調査や標本の鑑定により、黒竜江省における分布は亜種 *dacypus* と認められる。しかし、この亜種は現在すでに *cashmeriensis*, *nigrimentalis* の両亜種と共にイワツバメから分離し、独立の種、烟腹毛脚燕¹⁾ (*D. dacypus*) とされている¹⁵⁻⁸⁾。黒竜江省に分布する標準亜種であり、東北地区および黒竜江省においては新記録種である。その標本の各部測定値は下記の通りである。

表1 烟腹毛脚燕の測定値

No	性別	体重 g	体長 mm	翼長 mm	尾長 mm	跗蹠 mm	嘴峰 mm	採集地
YM961	幼	17.5	126.0	108.0	45.5	14.0	5.0	凉水保護区
YM991	♀	16.0	119.0	108.0	46.0	12.5	6.0	凉水保護区
YM992	幼	15.0	118.0	103.0	45.0	13.5	6.0	凉水保護区

1. 形態と巣の形

1.1 形態 烟腹毛脚燕の上体は、わずかに光沢がある藍色で、腰部が白く、褐色のしみがついていることがある。上尾筒に鱗状の横紋がある。下体は白色だがやや褐色を帯び、胸、脇の褐色がやや濃い。翼下雨覆は灰色、尾の先端はわずかに別れている。[白腹]毛脚燕 (*D. u. lagopoda*)²⁾ の成鳥は上体の頭から背中まで光沢のある黒色で、両翼は灰黒色、腰と上尾筒は白色、下体も白色、翼下雨覆も白色、尾の先端はやや大きく別れている。

1.2 巣の形 烟腹毛脚燕の巣は筆者の観察および文献によると、扁球形の巣が多く、直径の多くは縦方向が大きく、横方向が小さい。下部はやや円形、巣の上部に広く開いた口があり、あるいは上部の壁との間に隙間状楕円形の口を作ることもあり、普通毛脚燕³⁾ よりも大きな口径をしている。烟腹毛脚燕はツバメの古巣に泥を積み上げて利用することがあり、巣の下部に草の茎や葉を見かけることでわかる。また、コシアカツバメの古巣を補修して営巣することもある。文献の記載によると [白腹]毛脚燕の巣の形は比較的閉ざされた球形で、巣の直径は横より縦方向が大きい。下部がやや尖り、入口は円形か楕円形で1~2 cmの短い筒状をしている¹⁷⁾。

2. 繁殖、分布

2.1 国外 国外の繁殖はモンゴルの北部¹⁶⁾、ロシアのウスリー江と黒竜江流域、日本の北部(九州南部と琉球列島を除く)である¹⁷⁾。

2.2 国内 江蘇省と福建省で旅鳥というわずかな記載がある。筆者らの調査により、黒竜江省北部の呼中鎮(呼中区碧水中学に標本がある)、漠河県西林吉鎮、呼瑪県城、黒河市北郊の臥牛嶺ダム、南郊の愛輝郷勝山と三站林場、嫩江県城(交通警察大隊)、中央站林場と臥都河林場、遜克県奇克鎮、嘉陰県城、通嘉郷、烏雲鎮、伊春市烏伊嶺区北部の桔源林場、上游林場、美豊林場、永勝経営所などで繁殖している。上述の繁殖地は黒竜江省の北、ロシアの繁殖地と連続している。

1997年6月凉水自然保護区の研究棟2階西側上部の壁の窪みに一对の烟腹毛脚燕が営巣しな

がら、たびたびの大雨で巣の外側が壊れ、その都度、親鳥が補修していたが、ついに繁殖に成功しなかった。1998年と1999年は連続して見る事がなく、2000年6月中旬凉水自然保護区の宿舍棟の2階軒下に3巣を発見した。そのうちの1巣は、コシアカツバメの古巣を補修し、典型的な烟腹毛脚燕の巣を作った。他の2巣は、コシアカツバメの古巣の入口の大きい巣を狙って利用し、そのまま営巣した。上述の3巣の烟腹毛脚燕は、7月26日、2羽、8月3日4羽、8月6日3羽とそれぞれ巣立ちした。2001年6月にも1対の烟腹毛脚燕がこの建物に営巣した。小興安嶺南部帯嶺の凉水自然保護区(41° 10' 50" N)は現在知られている烟腹毛脚燕の黒竜江省における最南端の繁殖地である。

3. 渡り

春の渡来時は5月中旬から6月上旬にかけて、通常小群でばらばらに帯嶺に渡来する。1999年5月26日帯嶺の凉水自然保護区で8羽の烟腹毛脚燕を見たが、この烟腹毛脚燕は6月2日午後飛び去り、当地での滞在は8日間であった。6月7日に1羽見かけたが、翌日去っていった。秋の渡りは滞在時間がやや長く、決まった場所に大群で集結している。帯嶺凉水自然保護区では毎年7月中旬に初めて見られる。たとえば、1999年7月23日に初めて見られ、9月20日が最終観察日、滞在期間は1ヵ月近くに及んだ。8月中、下旬が渡りのピークで、ピーク時には3000羽ほどの個体を観察したこともある(1993年)。また、別に伊春市美溪区の樺皮卷子林場が秋の渡りの集結場所となっている。

4. 討論

筆者による黒竜江省内の主要な標本室の調査では、[白腹]毛脚燕の標本は全く見られなかった。中国科学院動物研究所の標本室でわずかに1羽の[白腹]毛脚燕の標本を見ることができた。ただし、カザフスタン採集の(*Delichon urbica lagopoda*, 標本No.47629)のものであった。文献^{12,3)}によると[白腹]毛脚燕東北亜種(*lagopoda*)の東北地区における分布は内モンゴル自治区の扎蘭屯と巴林、黒竜江省の愛輝(現在黒河市)などで、また、傅桐生等の報告¹⁰⁾によると吉林省の長白山にも分布している。しかし、筆者の観察では黒河市で見た全てが烟腹毛脚燕であった。内モンゴル自治区と吉林省長白山については標本の調査をしていないので、さらに調査を進める必要がある。凉水自然保護区の烟腹毛脚燕はかつて、数少ない旅鳥であったが、近年来、当地で繁殖するようになり、烟腹毛脚燕の繁殖地が南に向かって拡大していると思われる。そのメカニズムの解明について一層の研究が期待される。

訳注

- *1 烟腹毛脚燕；煤けた腹の色のイワツバメという意。1996年発行の「中国野鳥図鑑」顔重威・趙正階・鄭光美ほか、によると独立種として記載されている。日本に分布するイワツバメは清棲によると *D. u. dacypus* である。
- *2 白腹毛脚燕 (*D. u. lagopoda*)；黒田長禮の「日本現職大図説」によると *D. u. lagopoda* はシベリアイワツバメとなっている。また、清棲の「日本鳥類大図鑑」によるとシベリアイワツバメは *D. u. whiteleyi* とあり、中国の「東北鳥類」で趙正階は毛脚燕 (*D. u. lagopoda*) としており、混乱がある。したがって、ここでは和名を用いない。
- *3 普通毛脚燕；学名がないので詳細は不明。